

生徒の伸びしろを最大限伸ばしてくれる環境がある

T. M.

お茶の水女子大学 理学部 数学科 進学  
私立 リリーパール小学校 卒業

茨中・茨高の授業は、生徒の知的好奇心を刺激するものが多いと感じています。特に茨中の授業は学びを「楽しい」と思えるきっかけを作ってくださる授業が多いです。実際私は中学受験の時、理科が苦手に興味関心をなかなか抱くことが出来なかったのですが、茨中での理科の授業は実験が多く、実験が成功した達成感や教科書に画像で載っているものを実際に発見した時のワクワクが理科への苦手意識を払拭する大きな要因になりました。また数学の授業でも数学を用いた実験をしたり、公式を公式として教えるのではなく、きちんと成り立ちから説明し理解できる授業とそれによる思考プロセスが高3の受験期までとても大きな武器になったと思います。また茨中・茨高の課外はとても充実しており、私は中高6年間、一度も塾に通わず学校の課外のみでした。高校生になると特に進路を意識した課外が増え、医学部や旧帝大など入試に特徴のある学校への対策も学校でしっかりサポートしてください。また、基本的に学年の先生方は変わらず、生徒とともに持ち上がりで担任を持つため、生徒も先生方もお互いに年々理解が深まり、進路相談はかなりしやすいです。生徒の性格や意思を理解しつつ、戦略やアドバイスをくださるのは茨中・茨高の大きな強みだと思います。

私は中学3年から医学コースに所属していました。茨中・茨高の医学コースは、ざっくりとした医療へのイメージをよりはっきり捉えられるようにするところだと思います。現役の医療関係者にお話を聞く機会が多く、お話を聞いていく中で見えてくる現場のリアルや現在の医療の問題点から、医師や看護師の自分への適性を考えたり、医療系の研究職に興味を持つこともあります。医療従事者としての責任や覚悟を背負っていく上で、自分の進路を深く考える機会であり、自分の夢への促進力にもなります。

私は中学1年から吹奏楽部に所属していました。小学生の時に何か楽器を経験していた訳でもなかった私が、校内でも一、二を争う活動量を誇る吹奏楽部に入部したのは、当時の担任の先生の「中高6年間、自分を追い込む経験をしてもいいじゃないか」という言葉からでした。はじめは楽譜の読み方も分からず同期に追いつくことに必死で、勉強も疎かにしてはならないという思いから苦しく思うこともありました。しかし、先生や先輩、後輩の支えもあり高校1年次にはアンサンブルで全国大会グランプリを頂けるほど成長することが出来ました。コンクールの緊張感や集中力、自身の弱みを見つけ改善するという作業は勉強にも通じるところがあります。また、学年を超えた仲間とのコミュニケーションの質を高めるため、頭をひねる経験は机上の勉強だけでは得られない知識や経験を与えてくれたと思います。吹奏楽部は中学生と高校生が一緒に活動し、活動時間も他の部活動に比べて長く、学年を超えての繋がりが強いので、勉強や進路の相談もしていました。互いを高め合い、仲間と1つの目標にぶつかり合いながらも全力で励んだ日々は、学校生活で一番の思い出であり青春でした。

茨中・茨高の良いところは、生徒の伸びしろを最大限伸ばしてくれる環境があるところだと思います。専門分野に対する熱意にあふれた茨中・茨高の先生方は、指導もかなり手厚く、生徒の疑問に対して生徒がきちんと理解するまで丁寧に対応してくださる先生もいますし、思考力を育てるために考え方の手助けということを重視して教えて下さる先生もいます。中高一貫ということで先生の数も多く、それぞれ多様な強みを持っている先生方に溢れているということは大きな強みだと思います。生徒皆さんが自分に合った先生を見つけることが自分の能力を伸ばす近道になるということ、実際私も茨中・茨高に通い強く体感しました。また、高校受験を考える代わりに中学生のうちから大学受験のプランをある程度立てることが出来ることも良いところだと思います。授業は先取りをしたカリキュラムで組まれており、中学生の授業と高校生の授業を一緒に担当している先生も多いので、早く

から大学受験を意識した授業をしてください。加えて吹奏楽部のような中学生と高校生がともに活動している部活動に所属すると、中学生であっても高校3年生の受験に関する話を現役の受験生から聞くことが出来たり、受験と部活動を両立する先輩方の背中を見て育つため、早くから受験へのイメージが付きます。またそういった先輩方の背中を追いかけていたこと、自分が追いかけていたように後輩から追いかけているのがという意識が受験期の自分の糧にもなりました。同級生や学年の先生方といった横のつながりはもちろん、先輩後輩の縦のつながりが盛んなこともとても良いところだと思います。

大学進学後は教職も視野に入れながら、より専門的な知識を身に付けていきたいと考えています。教員になる場合は、茨中・茨高の先生方がしてくださったように学ぶことに対する楽しさを生み出し、学校の学びが自分と世界の可能性を広げることを伝えられる教員になりたいです。どのような形でも、自分の経験と知識を深めつつ社会に還元できる人間になりたいです。